若者×情熱
ミハラのチカラ

STORY 04

かるた姉妹、力を合わせて全国へ挑む

三原高等学校3年生　柏原有純（かしはらあずみ）さん（右）、
1年生　柏原衣純（いずみ）さん（左）

全国の高校生が日頃の芸術文化活動の成果を披露する全国高等学校総合文化祭。今年は7月30日（土）～8月3日（水）に広島県内で開催されます。その百人一首かるた競技に、三原高等学校3年の柏原有純さんと1年の衣純さんの姉妹が県代表チームのメンバーとして出場します。

和歌の上の句が読み上げられ、対戦形式で続く下の句の札を取り合う競技かるた。取り手は50枚の札を25枚ずつ自陣に並べ、先に自陣の札を無くした方が勝ちです。

優雅な伝統行事を想像しますが、実際はまさにスポーツ。Tシャツにジャージー姿の取り手は、開始前15分で札の位置を覚え、一瞬を争って札を取り合います。記憶力と反射神経、長時間の対戦に耐える精神力が求められることから、「畳の上の格闘技」と呼ばれています。

▲選考会に臨む柏原さん姉妹

姉妹がかるたを始めたのは幼稚園児のころ。近所の人に同好会に誘われたのがきっかけでした。「敵陣を攻めて相手の札を取るのが好き」という有純さんと、「守りを固めて自陣の札を減らしていくのが得意」という衣純さん。対照的な2人ですが、互いに励まし合いながら県内有数の競技者に成長しました。

大会では一試合終われば、すぐ次の試合が始まり、覚えた札の位置を忘れ、また一から覚え直します。「頭に少しでも前の札の位置が残っていると、取りに行くとき一瞬迷う。集中して忘れることも必要なんです」と有純さんは言います。

相手と激しく手がぶつかり、どちらが札を取ったか話し合うことも。気が弱いという衣純さんは「強気でいないとだめですが、やっぱり手が当たるのも交渉するのも怖い」と本音を漏らします。

かるたと学業の両立に忙しい毎日を送る2人。「進学してもかるたは続け、もっと大きな舞台に立ちたい」と夢が膨らみます。

※このコーナーでは、スポーツや文化・芸術活動などに情熱を注ぐ若者や子どもたちを紹介します。

写真・絵を募集しています

テーマ
～あなたが残したい三原の風景～

応募資格　市内在住・在勤・在学の人
選　　考　総務広報課で選考
※応募作品の著作権は市に帰属し、市の公式フェイスブックで紹介させていただく場合があります。
※応募作品は返却しません。
申し込み　郵送またはEメールで写真（L判・データ）か絵（大きさは画用紙A3サイズまで）と①名前②住所・電話番号③撮影・制作日④撮影・題材場所⑤作品名⑥作品エピソード（70字以内）を総務広報課（〒723-8601港町三丁目5番1号 ☎0848・67・6007 E-mail somukoho@city.mihara.hiroshima.jp）へ

三原百景（みはらひゃっけい）

須波沖風景

作品エピソード　撮影者　山村文人（やまむらふみと）さん

尾道糸崎港を出航し、須波沖を滑るように航行する豪華客船「ぱしふぃっくびいなす」。乗客の皆さん、初夏のよく晴れた日の瀬戸内の景色を楽しんでくださいね。この風景はいつまでも残したいものです。

●撮影年月＝平成28年5月
●撮影場所＝すなみ海浜公園（須波西一丁目）